

報 告 書

開催日時	平成 26 年 5 月 13 日（火）午後 7 時 00 分～ 8 時 30 分		
開催場所	下矢作多目的研修センター		
出席議員	挨拶 及川 修一班長（教育民生常任委員会委員長）		
	司会進行	大坪 涼子	
	報告者	及川 修一	
	記録者	鶴浦 昌也	
	議員	大坂 俊、松田 信之、清水 幸男	
参加人数	市民 4 人、市職員 2 人、東海新報記者 1 人		
主な要望 ・提言等	<p>1. 現在、県内を中心に I L C（国際リニアコライダー）の誘致活動が進められている。それに関連して矢作町の国道 3 4 3 号沿いに新笹ノ田トンネルを整備してほしい。要望するには今が絶好の機会。I L C の誘致が決まれば部品を運ぶため、大船渡港から大きなトレーラーで運ぶことになる。新しく整備された一関市大原地区のバイパスも生かされるのではないかと。現在のループ橋もいずれ老朽化する。冬場の交通安全対策としても国や県に要望してほしい。</p> <p>2. 復興資材に使用する土砂などが内陸部からひっきりなしにトラックで運ばれている。運転手に話を聞くと、笹ノ田峠に新しいトンネルと整備してもらおうと安全で時間短縮にもなると話している。</p> <p>3. 市道今泉矢作線を含めた気仙川に架かる橋のほか、第一中学校までの通学路や市道荒川山谷線、これらは命の道路。震災時には今泉から多くの人がこの下矢作コミセンまで来た。これらの道路改良がいつごろから始まり、説明会が開かれるのか。工事が始まってからでは遅いので、現状を聞かせてほしい。</p> <p>4. 下矢作地区の課題は詔石（あつらいし）橋の復旧。市からは違法な橋なので認められないと言われているが、以前は第一中学校への通学路だったほか、住民の生活道だった。市は姉齒橋を復活させ、そのほか詔石橋のあった場所の下流に新たな今泉大橋を整備するという。橋を架けるならもっと下矢作地区民が使いやすいように上流へ設置してほしい。姉齒橋は今泉地区民が使いやすいように、また今泉大橋は下矢作地区民が使いやすいようお願いしたい。</p> <p>5. J R 大船渡線の現状はどうなっているのか。以前、矢作町内 3 地区のコミセンが動いたことがあった。三陸鉄道は復活した。鹿折地区の線路を直せば矢作地区まで列車を走らせることができると聞いている。</p>		

3つのコミセンが合同でJR東日本の盛岡支店へ話し合いに行こうとしたが、断られた経緯がある。

6. 市の復興計画には、以前館の沖児童公園があった場所に新JR陸前高田駅の整備が計画されている。鉄路が復旧しなければ市の計画が絵に描いた餅になるのではないか。赤字路線だからといってなくしてほしいくない。
7. 県交通のバス路線について、県立病院への路線を充実してほしい。毎日でなくとも、一日置きでもお願いしたい。スーパーでの買い物などもしやすいようにしてほしい。BRTバスは以前駅があった場所でしか乗り降りできないので利用しにくい。
8. 高田町商店街の計画についての進捗状況はどうか。ベルトコンベアで土を盛り始めると聞くと、大型店を核にするのか、震災前のような個店が並ぶのか。
9. 新しい市役所は高田町の大町地区に高層で整備し、安全確保のため2階までを駐車場にしてはどうか。本丸公園に避難通路を設ければ、有事の際に逃げることができる。市役所ができれば商店街が形成されるのではないか。
10. 新しい市役所は車で便利な高速道路のインター近くがいいのではないか。三陸縦貫道の竹駒地区のインターが供用開始されて便利になった。
11. 三陸縦貫道を使って気仙沼方面まで行くことができるようになるのか。大船渡市立根町に行くとき、もうひとつ先のインターで降りて戻らなければならない。
12. 以前、あと2つほどホテルが建設される話があったが、どのようになったのか。
13. 震災で被災した嶋部地区の公民館を整備してもらえないか。公民館がないと地区の活動もできない。すでに防災倉庫があり、仮設でもいいので整備してほしい。
14. 下矢作地区にはAED（自動体外式除細動器）が小学校にしかない。ぜひ、コミセンにも設置してほしい。震災直後の避難所となっていた時にはあったが、市内の各コミセンに設置してほしい。
15. このような懇談会は各地区公民館の定例会などに合わせて開けば多くの人が集まるのではないか。
16. 市内も少子化が進んでいる。矢作町内でも3つの小学校が1つになった。若者が働ける場所を確保し、少しでも歯止めをかけてほしい。

所 感

【及川 修一】

参加者の数が少なかったが、J Rをはじめ公共交通機関の在り方、笹ノ田トンネルなどの道路整備についてなど、活発な意見交換が行われた。利用頻度の高かった詠石橋の復旧計画がなく、今泉大橋復旧事業の計画があるなど、高田今泉のために偏りがあるとの感想を持っているとの話がされ、地域の思いが寄せられた。

【大坪 涼子】

市道や新しくかかる今泉大橋などの工事の着工前に図面や市からの詳しい説明を求められたが、復興・復旧工事でも特に地元に関わることは、地域住民と話し合いながらすすめるべきと思った。

また、高齢者は通院や買い物に不便を感じているという不安な声も聞かれ、今後陸前高田市では高台に住む人が多くなることから、バスやタクシーなどの公共交通について議会でも考えていかなければと強く思った。

議会は、J R問題をどう考えるのか、J R大船渡線の鉄路での復旧について議会の動きが見えないことへの説明を求められたが、議会として、国やJ Rへの運動が今の段階で大切と思った。

【鶴浦 昌也】

少人数の参加だったが、道路や橋、公共交通問題など、地域課題について幅広く意見や提言を聞くことができ大変参考になった。特に新笹ノ田トンネルの整備に向けては、地域住民の切実な問題であることを痛感した。

【大坂 俊】

J R、県交通、国道など、地区内の交通網交通の体系についての意見質問が多かった。また、震災時、後方支援の拠点の一つとなった地区でもあり、市中心部へのアクセスの充実が求められるところである。

【松田 信之】

地域単位としては参加者が少なく、やや寂しい雰囲気であったが、むしろ膝を交えての懇談会であったことから、多くの意見や質問がみられ、少人数ではあったが内容のある報告会であった。

【清水 幸男】

コミセン関係者と地域課題を中心に忌憚のない話し合いであった。

懇談では、国道 343 号の改良や通学路確保の詠石橋の復旧、J R大船渡線への課題、バス路線等足の確保、少子高齢化への対応等地域コミュニティにおける様々な課題や要望が多く寄せられた。

しかし、この様な声を政策に反映し、より実現できるかを考える必要性を感じた。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成26年6月6日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会教民班

班 長 及 川 修 一 ⑩